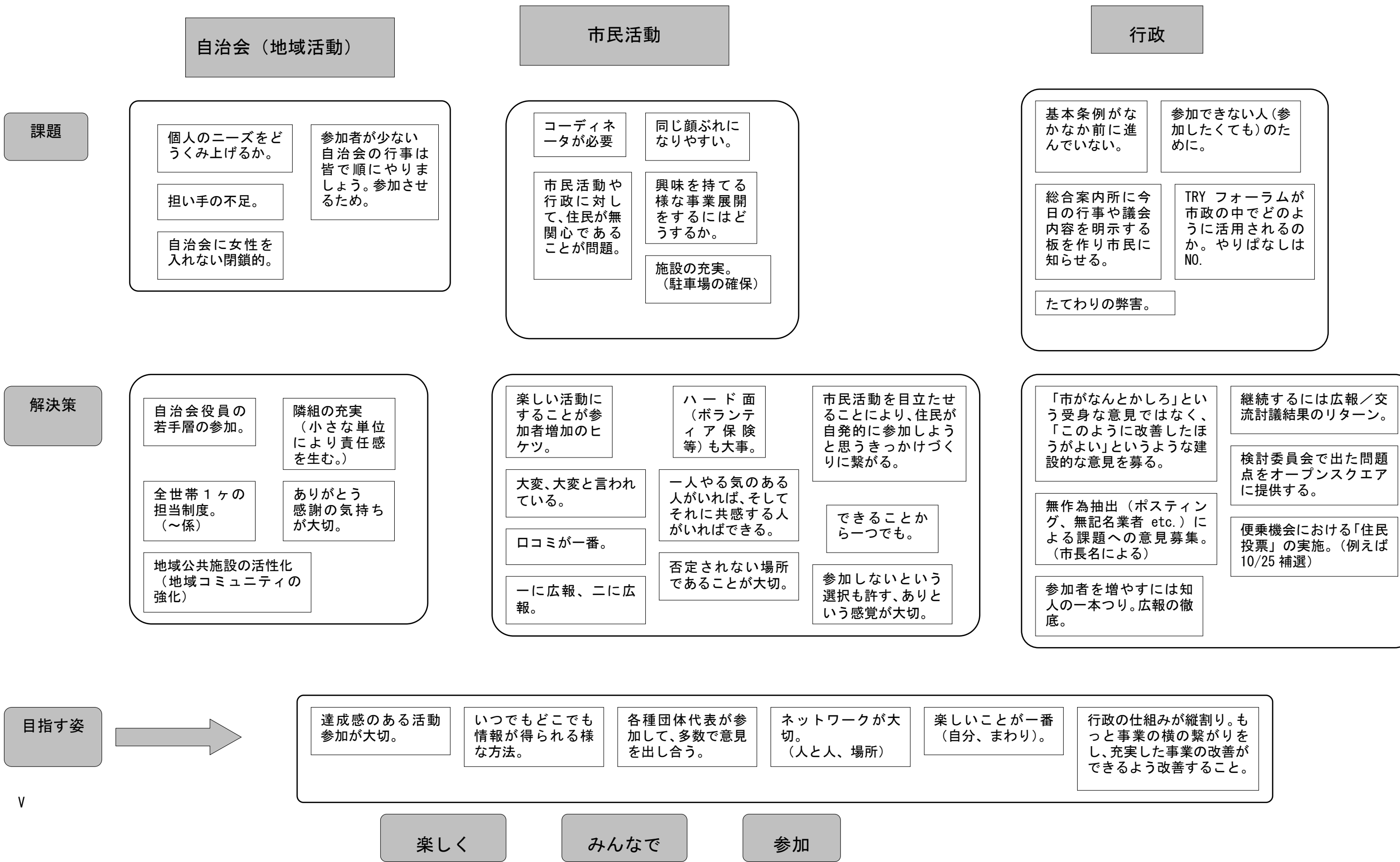


第3回オープンスクエア（平成21年10月16日）

1班（6人）



もっと市民参加・協働を進めるには!?

羞恥を育てる

まだまだボランティアの精神を育てるのは、時間がかかりそう。

文句を言うだけではだめ。自分でやれることをやる。

市民活動も縦割りになっているように感じる。

情報の共有・共担

活動の理解、認知が進むことが必要

ボランティア活動、市民活動の全貌を知りたい。

市民から出す情報と行政からの情報を合わせ持つ共担。

集まる時間差

情報共有⇒マップづくり

問題、課題の共有ができないと進まない。(意義がわからない)

市民からの情報提供を吸上げる仕組み。

情報共有が大切。

ポストやタウンといったタウン紙に市役所のページがあったらよい。

情報を出し合うしくみが必要

いかに市民に行政に参加してもらえるか。

活動があることを知らないから参加できないのでは？(友人談)

行政出発の市民活動も良い。

オープンスクエア等開催する場所、曜日、時間が大切。

普及入門

ITの活用！

行政からの情報(ニュース)を早く知らせてほしい。

個人情報保護の問題があって公開が難しい。

HPにアクセスできない方がいる。

坊主より記憶をかなり飛ばされて大変な毎日です。早くパソコンの講座を受けることができればと思っています。

パソコンボランティア的な人を市で依頼して、地域の人に市の情報を広めることを考える。

ホームページIT技術のリテラシー技術のカベ

議会の協力が非常に大切なのに、協力的でない議員さんが多い。

パソコンスキルの講習が必要。

女性は特にパソコンをやらない人が多いのでインターネットを見る人は少ない。

世話焼きが必要！！

小田原では、市民と行政などをやさしくつなぐジャーナリズムが弱い。

アピールが足りない。

公的な世話焼きが必要。

コーディネーターの役割。

“おちゃっこ”復活！！

おちゃっこの習慣

集まる場がない。

問題から出発すると参加できる。

身近な問題について気軽に話し合える環境づくりが大切なのではないか。

市民が容易に会合できる環境(場所、相談できる人)がほしい。

自治基本条例など、ほとんど知らない市民が多い。どうしたら良いのか？

楽しく活動する(←うらやましくなる)⇒人が集まる!?

もっと生活に密着した話題があると市民も参加しやすくなるのでは？

地 域

行 政

- 自治会への参加を推進する。
- 自治会に加入する。
- 子ども会に加入する。
- 自治会のあり方。
- 普段からの顔の見える近所づきあい。
- 子供がいる家庭は学校行事に参加する。
- 地域住民どうしのコミュニケーション。

意識

- 若者働き盛りの参加
- 無関心（おまかせ民主主義）
- 市民リーダーの育成（混合研修）
- 個々の意識の向上（他人事にしない）
- 研修活動

パートナーシップ
=
相思相愛

健全な対立
（行政VS市民）

文句を言ってほしい。

どこから⇒どこへの参加？

参加・協働

- いろいろな参加のメニュー
- 住民投票
- パブリックコメント（市民に意見情報改善案などを求める）
- 参加したいと思わせるような催し。
- 参加を求めるだけでなく、こちらから出向く。
- 催し物のスケジュール等の告知。
- 市民参加行事の予定を月単位で家庭へ郵送
- 町内に、市民に伝える掲示板の増設。
- 地域で行われるイベント（祭り、区民体育祭等）に参加する。
- トライフォーラムなどの実施。（サイレントマジョリティの声を掘り出す。）
- オープンスクエアの場所を工夫。
- オープンスクエアの予定を事前に知らせる。（テーマ、日程、場所 etc.）
- 開催場所の複数化。

姿 勢

- レスポンスの良さ
- 透明性の確保
- 行政のアリバイでない参加
- 地域担当制

もっと市民参加・協働を進めるためには

